

化学療法における口内炎処方

川部店

口内炎

口内炎は外観も大きさもさまざまで、小水疱やフラと呼ばれる粘膜が盛り上がり、中に水がたまる水疱ができたり、潰瘍（かいよう）ができたりします。潰瘍とは、口腔粘膜の細胞の最上層が崩壊して、その下にある組織が露出してできる穴のことです。穴の内部に残った死んだ細胞と食べもののかすのために、潰瘍は白っぽい色になります。口内炎は、口の内側にも外側にもできます。アフタ性口内炎（潰瘍性口内炎）と、ヘルペス性口内炎（口唇ヘルペス）がよく知られていますが、ほかにもさまざまな原因による口内炎がいろいろあります。（メルクマニュアルより抜粋）

患者概要

男性 60代 新患

数日前A病院退院後、初めての外来受診。

併用薬に関しては、「退院時のものがある」と返答あるが、詳細な薬名については分からないとの事。

処方

Rp1 ザイロリック錠 100 100 mg 5T
精製水 500ml
うがい：（口内炎、1回 10ml 使用）

調整法

ザイロリック錠を粉砕・懸濁しハイカップにて投与。